その意味で、私は子どもの支援はその保護者をも含めてフォローしていくことが必須だと感じています。子どもにも保護者にもあるいは関わる先生、支援者にも…「一人で抱え込まず、悩まないで」をもっと発信し、安心して相談のしやすい、不登校の子どもの抱えている困難を解決に導いていくことができると良いなあと思います。

だからこそ、子どもも大人もが立ち寄りやすい児童館をはじめとする居場所が必要であり、もっと頼れる相談窓口の設置に向けた人材育成など、やれることはまだまだ盛りだくさん！子どもたちを大切にできる地域社会をつくるために引き続き、力を尽くしたいと思います。子どもたちの幸せは、大人たちの幸せにつながります！

ご意見、ご相談などお寄せ下さい！

お詫びと訂正について

前号（２０２２年秋第１６５号）の１面に「来年７月には多摩中央公園に今までの約２倍もの床面積のある図書館本館が『中央図書館』として開館する予定です。」との記載をしたのですが、現在の図書館本館の延床面積は、　6,960.52平方メートル（多摩市立図書館HP）、建設中の中央図書館の延床面積は、　5,437.47 平方メートル（多摩市立中央図書館管理運営方針素案）との指摘をいただき、確認をさせていただきました。どこかで２倍ほどの…と耳にした気がしたのですが、全くの勘違いだったようで、関係者の皆様にはお詫び申し上げ、訂正させていただきます。今後、こうしたミスがないように、改めて緊張感をもって情報の発信に努めてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

Policy & Style

公平公正な姿勢！
市民全体に向けた活動を心がけ、
個人後援会はつくりません。

話し合いが大切！
意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、
「第3の道」を見つける努力をします。

政策づくりが議員の仕事！
議員としての専門性を磨き、
市民の自治力の向上をバックアップします。

PROFILE

1977年　兵庫県神戸市生まれ
1989年　北諏訪小学校卒
1992年　桐朋女子中学校卒
1995年　桐朋女子高等学校（普通科）卒
1999年　中央大学法学部政治学科卒
1999年～2002年　中小企業金融公庫
（今の日本政策金融公庫）勤務
2006年　明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了
（公共政策学修士）
2002年4月　多摩市議会議員補欠選挙初当選
現在6期21年目　諏訪2丁目在住

2002年～2007年　多摩生活者ネットワーク所属
2007年～　民主党→民進党に所属
2017年12月に離党して以来、政党には所属していません。

「諦めなければ大丈夫！」をモットーに活動しています！

Phone & Fax

☎：042-371-0763
いたずら、迷惑電話が多く、留守番電話専用にしています。
お名前、ご用件と希望する連絡先等をお願いいたします。
mail：hisaka_box@yahoo.co.jp

報告(ほう)・連絡(れん)・相談(そう)　市政と市民をつなぐ・信頼をつなげる・つながる　岩永ひさかと夢・まち会議レポート

2022年冬　第166号

多摩市議会議員　政党や特定団体の支援を一切受けず完全無所属で活動中

岩永ひさか Report（ほうれんそう）

http://www.iwanaga-hisaka.net/
発行/岩永ひさかと夢・まち会議　Phone（留守番電話専用）/ 042-371-0763

HOURENSOU HISAKA IWANAGA

市役所本庁舎の建替え。

市民にとって利便性の良い場所への移転なども検討されてきましたが、結果的には「現在地」での建替え方針が示されました。現段階で、各議員個々人の考えや思いはありつつも、基本的には、今後、行政が進めていく市民との対話を見守っていくことになります。

かつて、ニュータウン開発が始まったころ、多摩センター地域に市役所を移転させる議論もありました。しかし、合意形成ができず、今に至ります。過去の経過などを踏まえ、私は交通アクセスとしても中間地点あたりに位置する永山駅至近への移転がふさわしいのではないかと考えてきましたし、今でもその方向を模索すべきと思っていますが、残念ながら、現在、その選択肢は消えてしまったようです。

私は、これからの厳しい行財政を乗り切るために、市民参画や市民協働のまちづくりを進める必要があり、日頃から市民と市外に多く住む市職員との接点を意図的に増やすとともに、計画当初からの情報提供と市民との意思疎通を図り、市民と行政との信頼関係を高める工夫が求められると考えてきました。

そのためには、市民が気軽に足を運べ、市民の出入りが多くなるような市役所の環境を整えることも一つの方策ではないかと思っていたので、現在地での建替えとなると、やや難しいかなと感じています。例えば、市民も市職員も利用でいるようなカフェレストラン、飲食スペース、また、市民と職員とで運営する'まちづくり・行政情報室'などなど…。

市役所のサービスもオンラインで…とも言われますが、やっぱり、リアルに対面で、人と人が出会うことは大切であり、「行き交う」を大事にしていきたいものです。新庁舎の稼働時期は2029年度（令和11年度）をめどに…としています。引き続き、市民の皆さんとの合意形成も大切にしながら、建替えに向けて取り組んでいくことになると思います。
市民のお金（税金）で100億円以上をかけるプロジェクト。
これからも随時、関連情報をお届けしたいと思います。

2022年12月吉日　岩永ひさか

Pickup!

離島に留学している娘に会いに行きました。

雄大な自然と地球の歴史を目の前に、自分のちっぽけさをしみじみと感じました。

今号のテーマ
こどものみらい、まんなか。

子どもをみんなで大切にできる環境づくりを。

子どもをみんなで大切にできる環境づくりを。

12月の定例会で取り上げた一般質問「不登校総合対策」を通じて、感じたこと、考えたこと。

増え続ける不登校の子どもたち

文部科学省が毎年実施している調査でも明らかにされているように、不登校の子どもたちの数は過去最多。この調査では長期欠席が30日以上の子どもたちを「不登校」としています。そのため、学校から足が遠のいている子どもたちはそれ以上に存在すると指摘され、私も保健室登校あるいは遅刻しがちであったり、五月雨登校（ポツポツ休む）等のことが気がかりです。

私も常日頃から感じていることですが、自分自身の考えや思いを「言葉」でうまく表現し、伝えることは簡単ではありません。だからこそ、学校へ行く足取りが重くなっている子どもたちからのサインを受け止めていくことが求められるのだと思います。

さて、多摩市の子どもたちの状況ですが、やはり不登校の子どもたちの数は増えており、「出現率」も高くなっているのが現状です。その中で、私が、課題だと感じているのは、「どこにも誰にも相談することなく」不登校の状態に追い込まれてしまった子どもの割合が「約3分の1」もいるという事実です。

不登校は子どもたちの心にも身体にも完全に鍵がかかってしまった状態とも言えますが、まだ、鍵をかけてしまう以前の段階で、何らかの手立ては出来なかったのかと思います。

これについては、市教委も課題認識をしていますが、残念ながら、今のところ、有効な手段を講じることができていないのが現状です。

昨年度、一旦立ち止まった「不登校特例校」の設置については

ところで、昨年、検討も進み、いよいよ開設の運びに…という流れで検討されていた不登校特例校。諏訪中学校の分教室として瓜生小学校内の設置をめざしていましたが、地域との意見交換などを踏まえ、「再検討し、練り直しをする」こととなりました。

今回の一般質問で再検討状況を尋ねましたが、まだ公表できる段階ではないものの、先進事例に学び、よりよい在り方を模索しているようです。もともと「中学生」を対象としていましたが、私は現状に照らし、小学校4年生以降の子どもたちも通える場所にしていくなど、検討する必要があると提起しました。

今後、さらに検討も進み具体化されていく「不登校特例校」の設置ですが、設置されれば問題が解決されるわけではありません。さらに、私たちは今の子どもたちを取り巻く環境を見つめ直す必要があるでしょう。「給食楽しい！」と言えない「黙食」問題、マスク着用が求められ、辛くても耐えている子どもたち…コロナ禍の影響も少なくありません。

私の経験を振り返ると、変わらなければならないのは大人たち。

2016年9月、文部科学省の通知において「不登校」を「問題行動」と判断してはならず、すべての子に起こり得ることであり、学校に再登校させることだけを目標にせず、支援することの必要性が示されました。

とはいえ、「学校には行くものだ」との価値観はまだまだ根強く、外見上では元気な子どもが学校を欠席することを「良し」としない風潮は社会全体から取り除かれているとは言い難い。そうした空気感が余計に子どもだけでなく、保護者も追い詰めることがあるではないかと感じています。

私は子どもが心に抱えている何らかの困り感、自分自身でもどう表現したらよいかわからずに苦しんでいることを前提にしながら、本来は大人の側が対応姿勢を変えることが大事なことではないかと思います。

それは、自分自身が子育てをしてきた経験からも当てはまること。「いいよ、学校に無理していかなくても、ちょっとお休みしても。」と言えることが大切な気がします。実際に、私自身も我が子にそう言えるようになるまでには時間がかかりましたし、例えば、ちょっとした人間関係のつまずきに対し、ついつい「そんなことでクヨクヨしててどうするの。」と声掛けをし、子どもをさらに傷つけ、追い詰めていたこともあると…今は反省も込め、振り返っています。

子どもの支援をする大人へのフォローや支援も。

私の場合には相談できる場や人がいて、救われてきました。当たり前のことですが、大人のイライラや焦りは子どもにも伝わっていき、余計に悪循環にもなるからです。（裏面につづく）

多摩市の不登校児童・生徒の数（文科省調査）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
小学校	29人	60人	78人	103人	128人
（出現率）	0.41%	0.84%	1.11%	1.47%	1.85%
中学校	140人	120人	139人	149人	194人
（出現率）	4.68%	4.03%	4.69%	4.85%	6.16%

出典；多摩市教育委員会作成資料より岩永作成

西東京市のフリースクール。「学子」。
毎月3回開催しています。子どもたちは、普段は公立小学校に通い、「学子」が開室しているときにだけ登校します。フリースクールからの活動報告書を提出することで、公立小学校も「欠席」とはならず、「出席扱い」にしてもらえます。